

令和6年度 酒田市立酒田看護専門学校第13回生

卒業証書授与式

卒業生答辞

厳しい寒さが和らぎ、春の訪れを感じる今日の佳き日にこのような盛大な卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。ただいま、学校長よりご訓辞を、ご来賓の方々よりご祝辞を賜り、卒業生一同こころより感謝申し上げます。

3年前、私たちは「看護師になりたい」という強い思いを持ち、酒田市立酒田看護専門学校に入学しました。夢に近づいたことを実感するとともに、これから始まる学校生活に期待と不安を抱きながら入学式を迎えました。

1年生の初めての実習では、患者さんが過ごされている環境はどのようなものか知り、看護師が患者さんに起こりうることを予測して、安全な環境をつくり安楽に過ごしていただくための看護を実践していることを学びました。そして、患者さんの安全・安楽を守るためにたくさんの看護技術を授業で学び、症状に対しての看護をグループで演習したり、事例を通して看護を展開していく過程を学びました。

初めて患者さんを受け持たせていただいた実習では、日常生活援助を患者さんに実施していくことに緊張でいっぱいでした。そんな中、私たちに患者さんが「ゆっくりで大丈夫だよ、ありがとうね。頑張ってる。」とあたたかい言葉をかけてくださることがありました。私たちが看護をしているはずなのに、私たちが患者さんから安心感をいただいている…、そんなふうを感じ、人と人の相互作用の持つ力を実感したものです。そして、自分が実施したことが、患者さんに影響することの嬉しさや達成感を得ると同時に、怖さや未熟さを実感し、看護師としての責任を果たすためには学び続けなければならないことを教えてもらいました。

3年次の臨地実習では、自分の看護は最善なのか、自分の考えに自信が持てず迷うこともありました。患者さんと真摯に向き合い、その方の希望や思いを尊重した関わりができていたのか考え続けてきた私たちは、看護者として一人ひとりが成長につながる経験ができました。

各実習先で受け持たせていただいた皆様、非常勤講師の先生方、各実習施設でご指導くださったスタッフの方々、教職員の皆様に感謝を申し上げます。そして、私たちを一番近くで見守ってくれた家族には「ありがとう」と伝えたいです。心配して声をかけてくれたり、何も言わずそばで支えてくれたこと、最後まで私たちのことを信じてくれたことに感謝しています。

14回生・15回生の皆さんにとって、これからも続いていく学校生活や実習は、看護者として成長することのできるとても充実した時間となるはずです。これからいろいろな方と出会い、多くのことを学んでいく中で、自分が行う看護に迷い悩む事が多くあると思います。そんな時は、看護の道を志そうと思った自分の気持ちや宣誓式で決意した看護師像を思い出し、自分に何ができるのか、考え続けてみてください。また、自分の看護を振り返った時、できなかったことに目を見けることも大切ですが、自分ができたところも自覚することが大切だと思います。そして、困ったときには、そばにいる仲間を頼ることも忘れないでください、13回生一同、応援しています。

13 回生の皆さん、13 回生は一人ひとりが考えをしっかり持ち、努力を惜しまない人、困っていたら助けてくれる人、笑顔が絶えず楽しませてくれる人など、個性豊かなクラスだったと思います。3 年間、ともに支え合い、辛いことも共感し、看護者としても人としても成長することができたことにとても感謝しています。私にとってこの 3 年間は看護をしていくことの難しさを実感する一方で、看護にやりがいと楽しさを感じられる、幸せでかけがえのない時間でした。今まで出会ったたくさんの方々のおかげで今の自分があることに感謝を忘れず、これからはそれぞれの場所で、今まで培ってきた看護観や倫理観を大切にして、努力を惜しまず進んでいきましょう。

最後になりますが、ご来賓の皆さま、校長先生はじめ教職員の皆さま並びに在校生の皆さまのご健康とご多幸をお祈りするとともに、私たちの母校となる酒田市立酒田看護専門学校のますますのご発展を心より祈念し、答辞とさせていただきます。

令和 7 年 3 月 1 日

酒田市立酒田看護専門学校 第 13 回生
卒業生代表 小松雛美

